HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」69号
Issue Date	1986-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66546
Type	journal
File Information	yuin69.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

楡蔭

The Hokkaido University Library Bulletin　No. 69　June. 1986

図書館電算化事始め

附属図書館長　大野公男

1. 北大のどこに雑誌“自然”があるか？

まず利用者端末の前にすわる。画面の上部に“書名, 雑誌名, ……をタイプし「実行/送信」キーを押してください”。というメッセージがあり，検索語の第1欄のカーソルが点滅している。“シゼン”と打込んで実行キーを押すと, 右側の該当件数に4件という表示が即座に出てくる。そこでIIのキーを押すと, “少々お待ち下さい”というメッセージが出て，簡単な書誌表示に画面が変る。なるほど4件あるが，探していたのは③の中央公論社の自然である。③の自然がどこにあるかを知るために，3のキーと実行キーを押すと，また画面が変って，本館書庫，理学部等11カ所に何年から何年まで，何巻から何巻までがあるということを知ることができる。終には“PF 3”のキーを押すと最初の画面に戻る。かくして全学の図書室でどの年の“自然”を所蔵しているかを一分たらずで知ることができる。しかもこの所在情報が最新のものを提供できるというのが電算化の長所である。今迄の冊子体による形式では数年程度の遅れがどうしても生じていた。

もっとも上述の例はごく簡単なものをあげたので，例えばJournal of Chemical Physicsという雑誌だともっとキーを叩く必要がある。しかし習うより慣れろで，利用者端末の前にすわって，画面のメッセージと傍に備えつけられている「北大蔵書検索システムの手引き」を頼りにいじっていると，パソコンゲームに接したことがない者にもなじむことができる。画面で指示されたものであれば間違ったキーを押してもプログラムがこわれることはないし，妙な所に迷い込んだら“PF 3”のキーで出発点に戻ることができるので心配はいらない。

2. 北大蔵書検索システムの当面する問題点

第1の問題点はオンライン検索の対象となる図書および雑誌の所在情報の悉皆性である。雑誌については和洋合せて約2万点がすでにデータベース化され，今から1年以内に残りの約1万点のデータも入力され全学の雑誌が検索の対象となろう。ところが図書の方は現在ファイルに入力されているものは約千冊に過ぎない(5月10日現在)。この数は1日平均数十冊の割合で増えているし，この率も増大することが期待できるが，何しろ全学の所蔵図書は176万冊余，附属図書館と教養分館だけでも64万冊余，年間の増加冊数は全学で約6万6千冊余という膨大な量である。これを入力するのは並みたいていのことではない。それで附属図書館としては昭和61年度受入れ分から入力を始める計画で，それ以前の分の入力（遡及入力と呼ばれる）につ

いては別に計画を立てることにしている。そもそもこの大学書誌の所在情報の形成と検索システムは，学術情報システムの一部として全国的な規模で文部省が立案・推進しているものである。学術情報システムの中枢的役割（つまり計画・調整・研究開発・教育訓練の4機能にデータベースのサービス）を呈するものとして本年4月に国立大学共同利用機関として学術情報センターが誕生した。北大の書誌所在情報の形成はこの全国の大学の共同作業の一端を担うものである。従って学術情報センターがらみで色々の問題点が生じうるが，それについてはここではふれない。

沢山の書誌所在情報が入力され，オンライン検索が便利に行えるようになると次の第2の問題点が生じてくる。それは検索に利用できる端末の数である。現在の北大図書館システムの端末数は100台でそれが23部局に配置されているが，利用者が検索に使える端末は33台である。つまり工学部のような大部局でも部局図書室まで歩いて行かねばオンライン検索ができない。現在学内には少くとも数百台のパソコン・ワークステーションが存在する。これらを図書館システムに接続したいという希望は当然出てこよう。これに答えるためには，ホストコンピュターのレベルアップ，通信回線の確保などの大問題を解決しなければならないが，こういう希望が出れば，それは，北大のオンライン検索がその第一歩を満足に踏み出したことを意味しよう。

3. 図書館電算化をめぐって

学術情報システムの基本的な考え方は，

a. 学術の研究・教育に要する情報の生産・蓄積流通の諸機能を有機的に連続した総合システムを建設する，

b. これらの情報はわが国の資源であって研究者・教育者がこれを共有する，

c. このシステムは研究教育に携わる者にとって最適なものになるよう作っていく，

と要約できるかと思う。

16年前今村成和元図書館長は，楡蔭に「大学図書館改革への途」という一文（Vol. 4, Ex. ed. Oct. 1970）を寄せられ，その中で大学図書館の理念について「その趣旨とするところは，ひろく全学的な理解と協力の許に，大学の共有財産である図書が，学問に志す者のすべてに開放され，利用されるのに役立つ図書館を作り上げてゆくことに在る」と喝破しておられる。正に資源共有という考え方である。オンライン検索の普及がいわゆる「図書専用化」傾向の修正に役立つことを期待したい。

電算化に対する不安としてプライバシーが保護されるかという点がある。たしかにシステムの中には，私なら私がどの本を何時借りたかという記録が存在する。それがないと返却の催促もできない。しかしこの記録は一般利用者がのぞくことはできないよう設計されている。のぞきうるのは図書業務に従事する職員である。そもそも図書館員が利用者のプライバシーを守ることは，医療に従事する者が患者のプライバシーを守ることと同様基本的義務である。幸いに北大図書館においても最も忠実に利用者のプライバシーを保護するという倫理が実践されてきたし，今後も実践され続けていくことであろう。

公費で購入した資料の所在を明かにするということは当り前のことであると考えられる。しかしそれはその資料を利用したい人に対して開かれている途であって，他の目的に使ってよい情報ではない。例えばある研究室が貸出している図書のリストを作ることは利用者はすることができない仕組になっているが，ひまにまかせて研究室で貸出中の図書の種類を検索語で調べられてしまわないかという危惧に対しては，システム上と相互利用の仕組の上からと両面の工夫によって対処していきたいと考えている。

4. おわりに

北大図書館の電算化は始ったばかりである。是非試されて，いろいろの御注文や御苦言を賜わるようお願いする。

就　任　の　挨　拶

事務部長　酒　井　　豊

附属図書館事務部長に就任してから1カ月半が経過しました。まだ慣れたというわけではありませんが，この頃やっと事務引継のときに頭の中で理解していたことと具体的な事柄が一致するようになってきました。大規模大学から6年間離れていたので，その辺の勘を早く取り戻す必要があるし，同時に北大の伝統的な処理方法も身につけなければと考えております。

ところで現在進められている図書館業務の電算化は，いうまでもなく学術情報システムの一環として位置づけられ，学術情報センターとの対応を考えていくとともに，学内においては利用者が容易に蔵書のオンライン検索をすることができるシステムを目指し，同時に図書館の管理業務も処理できるよう周到な計画のもとに行われてきましたが，とにかく本館，教養分館および21の部局図書館・室が一斉に電算化に対応し，取り組んでいくということは並大抵のことではありません。しかしおおよその基本的なレールは敷かれ，多少のばらつきがあるにしても運転が開始したわけで，よくここまで漕ぎ着けたものと感心しております。勿論まだ解決すべき問題点はありますが，問題の主力は電算化が進むにつれ，その維持，発展のための運用体制をどうするかということに移っていくと思います。

私の40年近い大学図書館生活を振り返ってみると大きなうねりが2つあったと考えられます。1つは昭和37年頃東大から起った大学図書館の近代化の波で，当時東大はロックフェラー財団からの資金援助を受け，近代化のための改善に取り組み，私はその1つの柱である全学総合目録の作成に従事しました。部局にある約45万枚の目録カードを複製し，中央館にあるものと統合する作業でした。その頃は日本にまだ電子複写機がなかったので，撮影したマイクロのネガを米国に送り，原寸大にプリントしてから船便で送り返してもらい，それを修正加筆して総合目録に編入するという手の込んだ仕事を大変な苦労をかけて2年間続けました。大分手前味噌になりますが，今その総合目録が立派に役に立っているのを見ると，あの時苦労したけれども良かったなあという思いがしみじみ湧いてきます。

その次の大きなうねりが学術情報システムです。その前奏曲は昭和40年代の中頃から図書館に専用電算機が導入されたことにより始められましたが，受入，貸出等いわゆるハウスキーピング的業務のみが対象でした。昭和55年に学術審議会から「今後における学術情報システムの在り方」が答申されて以来，大学図書館は学術情報システムのネットワーク中に位置づけられた電算化へ移行してきました。

北大でも前述のごとく，その電算化作業が続けられております。5月1日から本分館で開始したオンライン貸出をもって，利用者サービスに直結するシステム作成の第1期計画は予定どおり完了しましたが，なお，業務用プログラムの開発が続けられており，図書館ではまだかなりの職員が毎日遅くまで残って仕事をしております。一方，各部局図書室においても，すでにいくつかの業務が電算機処理に移行するとともに，全面的移行のための準備が精力的に進められております。このように北大図書館業務の電算化は今一番大事な時期にさしかかっておりますが，この事業は一北大のためばかりではありません。道内の国公私の大学図書館が，日本全国の大学図書館が期待をもって見守っております。私は北大の図書館が全学の御支援，御協力によりこの事業を成し遂げ，将来の栄光をつかむことと深く確信している次第です。

利用者サービスについて

工学部中央図書室

はじめに

昭和59年に工学部は創立60周年を迎えた。創立当時建築された通称「白亜館」は西欧の教会を思わせるようなユニークな建物であり，その白亜館に土木，機械，電気等の研究室が設立され工学部の第一歩となった。

創立当時の図書室の実態は明らかでないが，図書掛として事務組織の中に出てくるのは，昭和24年からであり，図書掛職員も3～4名程度からスタートしたようである。その後，学科図書室が整備され現在13学科図書室（職員14名）となり，中央図書室も図書整理掛，図書閲覧掛の2掛体制（職員11名）となっている。これらの図書室が有機的且つ機能的に結びつき運営されている。

また，現在の工学部の蔵書は和書164，815冊，洋書132，777冊，和雑誌受入1,275種，洋雑誌受入808種（昭和61年3月31日現在）である。

中央図書室の現況

中央図書室の資料構成は開架図書約16,000冊，参考図書約4,000冊，和洋雑誌受入約950種（他に工学部全体のバックナンバー），二次資料（索引，抄録誌）34種が主な資料である。この中で中央図書室では開架図書，二次資料には特に重点を置き収集を行っている。開架図書については毎年500冊程度，教官の選定により補充され，これらの図書の利用は工学部の利用者はもとより，最近では理学部，応用電気研究所等の他部局からの利用者も年々増加しているのが現状である。

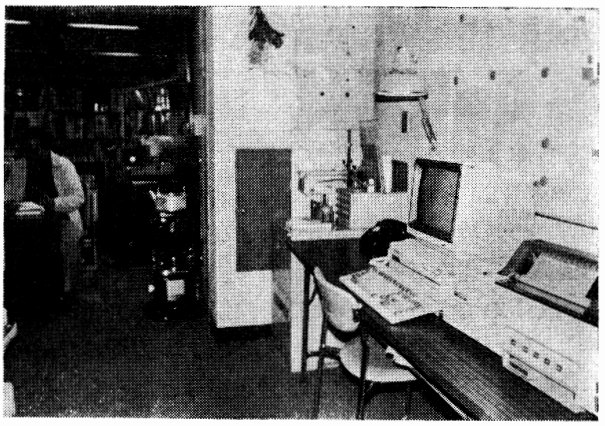
また二次資料については

1. CHEMICAL ABSTRACTS. (WITH INDEXES)
2. ENGINEERING INDEX. (ANNUAL)
3. DISSERTATION ABSTRACTS INTERNATIONAL.
4. GOVERNMENT REPORT ANNOUNCEMENT AND INDEX. (WITH ANNUAL INDEX)
5. INDEX TO SCIENTIFIC AND TECHNICAL PROCEEDINGS.
6. PHYSICS ABSTRACTS.
7. 科学技術文献速報（全編）

が受入され，他にも外国索引誌，11種，国内索引誌，4誌が現在受入されており，多くの利用者のマニュアル検索，書誌確認作業に威力を発揮している。これらは最近の自然科学の著しい進歩発展にともなう学術情報の増加の中では大切な検索ツールであり，二次資料の充実は重要である。しかし又，教育，研究費の硬直した現在は一次資料の拡充は難しく，一次資料は図書館間の相互協力により，確保していかなければならない時代である。また，中央図書室では今年の4月より多くの利用者の要望により，On-Line 情報検索サービスを開始した，利用システムは JOIS, DIALOG, UTOPIA で，通信速度は従来の300 bps から道内大学では初めての1,200 bps を追求中であり，利用者の経費負担を少しでも軽くすることを考えている。

中央図書室の，この他の主な利用者サービスに語学演習室の運営，テレックス，ファックスによる研究用，業務用の情報交換サービス，学術雑誌のコンテンツサービス，等があり歴史

があるもの，最近開始したものなど，いずれも利用者サービスの中心を支える大切な業務である。



学科図書室の現況

中央図書室の利用者の大多数は学生であるが，他方，学科図書室は，学問主題に対応した図書室であるため利用の対象は教官，大学院生等が主である。そこには，専門分野に精通した掛員が学科図書室を維持管理し運営している。

学科図書の業務内容は，受入，整理，保管，提供等にわたり一連の図書業務全般を行っており，中央図書室との関係において，円滑なる処理が行われるように新着雑誌，図書決算等業務に於いて双方にチェック機能を持たせ，この分散化システムの調整を図っている。

学科図書室の収書体制は，主に学術雑誌，学会関係誌等の一次資料で構成されており，研究室との関係においては，レター，レポート，予稿集，学位論文などインフォーマルな物にまで及ぶ。まさに，情報源がここに蓄積されており，情報の生産者としての研究開発の活動がここでなされているのである。

特殊な専門図書については研究室に所蔵されている事は他の部局と同様であるが，雑誌のバックナンバーについて，特に途中解約雑誌，学科図書及び研究室からの保管換雑誌は，中央図書室および他の学科図書との調整により重複を出来るだけ避け分担収集（役割としての集中管理）を貫徹し学内，学外の利用者の不便を解消しようとしている。

文献の提供については，主に資料の貸出，複写サービス，学内の所在調査，および中央図書室を通して相互貸借，他大学への文献依頼など広範なるレファレンス・サービスを行っており，また，最近では機械による文献検索の利用者の補助をも行ない新情報への要求に応えている。

このように，学科図書室は，中央図書室と講座との中間にありその接点を利用者のニーズに置き小図書室ながら，オール・ラウンド・プレーヤーとしての自覚を持ち，積極的な図書館業務を日々目指している。

あ と が き

世はまさに電算化時代に入り，北大図書館にも今回電算機が導入され，図書業務も大きく変化しようとしている。

工学部においても全学統一メニューを消化すべく奮闘中であり，また工学部の環境にあった独自のメニューを確立していかなければと思っている，さしずめ貸出業務，複写業務，予算管理等が考えられる。

昨年度，工学部中央図書室にテレックスとファックスが設置された，これは単に学術情報交換と言うだけでなく日常の図書館業務に密着した複写業務，参考調査，相互貸借業務などで他大学図書館とささやかながら使用を始めたが，その使用方法は今後の検討課題である。

また，機械検索の通信速度を1,200 bps で追求中であることは先に述べたが，完成までに通信回線，電話モデム，パソコン，通信ソフト等の点検・調整に以外に手間取っている。

以上，当面の課題めいたことを，あとがきとしたが，機械に振り回されないよう全てが利用者サービスの向上にあることを，念頭におきつつ着実に前進して行きたいと思っている。

（工学部図書閲覧掛　和　田　章　憲）

新築図書室紹介

農学部図書室

昨年8月9日から当学部北側に着工していた新棟が2億6千9百万円の費用をかけて昭和61年3月14日に竣工した。

この新棟には図書室関係および農薬化学講座等が入居することになっており，特に木造の旧図書室の痛みが激しかったので，竣工されるのを図書掛としては一日千秋の気持で待ち望んでいたものである。建物は鉄骨鉄筋コンクリート造りの3階建で総面積は1,642 m² である。

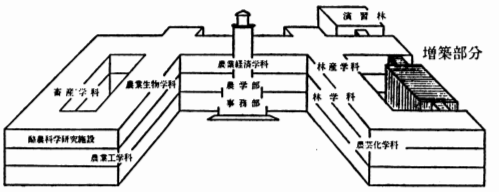
1階は閲覧室と書庫（電動式で約13万冊の収納可能）で面積は541 m² である。2階は約$\frac{2}{3}$が図書室関係で残りの約$\frac{1}{3}$は講義室等となっている。2階は図書掛事務室・資料室・複写室・カード室・文書保管室および講義室等で面積は約550 m² である。3階は農薬化学講座等で面積は2階と同一の約550 m² である。老朽化著るしい図書室から新図書室へ，3月24日と25日の2日間掛けて旧書庫に収納されている蔵書（約4万5千冊）を除く全てを搬入した。その後，電動式書庫の工事が4月24日に完了し，旧書庫の蔵書を新書庫および資料室へ搬入するための作業も終了した。しかし，搬入は完了したものの，移転と図書業務電算化への準備等で通常業務が停滞ぎみであったが，最近になって電動式書庫に搬入された図書資料を徐々に配架整理することが出来るようになってきた。利用者のためにも，一日も早く整理して利用に供したいと考えている。

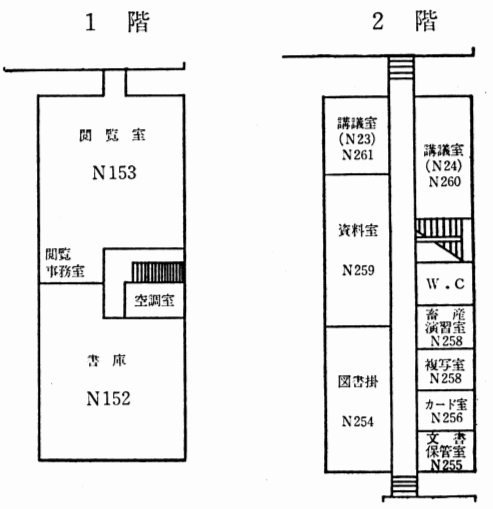
なお，新館には西側と東側と両側に入口があるが，本館との構造上入口は2階となるのでご注意いただきたい。

最後に建物竣工に絶大なご尽力を傾注して下さった関係者の方々に心より謝意を申し上げます。

（関根　正宏）

農学部概観図





資料紹介

昭和60年度　特別図書購入費で購入した図書

信　濃　第1次：第1-7巻（昭和7-13年），第2次：第1-58号（昭和17-22年），第3次：第1-32巻（昭和24-55年）復刻版

極めて高い学術的内容をもつ地方史研究誌として，わが国の史学研究に大きな役割を果たしてきた。昭和7年の創刊以来，月刊誌として現在も継続刊行されている。

教育雑誌　第1-33巻（1909-1948）復刻版

清末の宣統元年（1909年）2月に創刊された雑誌で，近代中国ではもっとも長期間にわたり発行され，かつ広汎に流通した。中国における教育問題や，内外の教育状況の報道，外国の教育思想の紹介を主な内容としている。また，執筆者は教育界のみならず各界を網羅している。

大　系　顔眞卿之書　昭和60年

中国，日本の各家・機関に所蔵される顔眞卿の書跡を集めた「顔眞卿書蹟集成」と約2万字の顔眞卿の書跡を一字一字分類して編集した「顔眞卿大字典」からなる。

The Complete Works of William Hazlitt. 1930-1934 Reprint ed. (1967)
（ウィリアム・ハズリット全集）

William Hazlitt (1778-1830) はイギリスの批評家・随筆家。その文芸批評はイギリスロマン主義の思想，批評原理を代表し，イギリスロマン主義研究にとって重要な位置を占めている。

Descriptions des Arts et Métiers. 1-25, 1761-1789. Reprint ed. (1984)
（18世紀フランス「技術百科全書」）

本書は1761年から1789年にかけてフランス科学アカデミーより刊行された「技術百科全書」の復刻版で，当時のフランスの最高水準の技術を包括的にまとめ詳細に解説したものである。

British Economic History.
（イギリス経済史未公刊学位論文叢書）

イギリスの近・現代経済史に関する未公刊学位論文18点が収められている。

Protocolle der Commission zur Ausarbeitung eines Allgemeinen Deutschen Obligationenrechts. Bb. 1-6 (1863-1866) Reprint ed. (1984)
（ドイツ一般債権法制定委員会議事録）

通称1866年ドレスデン草案といわれているもので，法典としては成立しなかったが，その後の1900年施行の現行およびGBの立案に際し，多大の影響を与えた債権法立法草案である。

Protokolle der Kommission zur Ausarbeitung des Entwurfs einer Civilprozessordnung für die Staaten des Norddeutschen Bundes. Bd. 1-5 (1868-1870) Reprint ed. (1985)

(北ドイツ連邦民事訴訟法大系草案検討委員会議事録)

現行ドイツ民事訴訟法 (ZPO 1877年制定) に先立って作成された北ドイツ連邦民事訴訟法草案についての委員会での審議を記録したもの。

刑事裁判記録 (複写)

日弁連に保管されているわが国戦後の著名刑事事件～いわゆる弘前大学教授夫人殺し事件外7件～の裁判記録を複写したもの。

朝鮮総督府編纂教科書 1922-1928年 全66巻 覆刻版

(旧植民地・占領地域用教科書集成)

朝鮮総督府が朝鮮人を対象に普通学校 (初等学校) 用として編纂した教科書。修身, 日本語等全教科にわたる。

Education in the United States; a Documentary History. Vol. 1-5.

(「アメリカ教育史」資料集)

アメリカの植民地時代1607年より1971年までの教育史を資料1,348点で体系的に示す。その資料の種類は多岐にわたり, 新聞, 雑誌記事, 書簡, 公的文書, 教科書, 学術書等におよぶ。

Deutsche Wissenschaft Erziehung und Volksbildung; Amtsblatt des Reichsministeriums für Wissenschaft, Erziehung und Volksbildung und der Unterrichtsverwaltungen der Länder. Jg. 1-11 (1905-1945)

(ドイツの科学・教育・国民教育)

1905-1945年までのドイツ帝国文部省および各州教育行政府の官報。

社会主義 第1-1372号 (1951-1982)

戦後日本の政治, 経済ならびに社会運動, とくに労働運動に関して労農派マルクス主義の立場から現状の批判的分析や展望を示してきた社会主義協会の理論機関誌であり, いわゆる社会党—総評ブロックの理論的支柱の役割を果たしてきた雑誌。

北海道大学図書館オンラインシステムの運用を開始

学 術 情 報 課

本学図書業務の電算化が認められ，同時に学術情報課が新設されてから早くも1年有余が過ぎた。この間，61年4月からの運用実用化を目指して，機種の選定・基本設計・メーカとの交渉・詳細設計のチェック・100台の端末機器の各部局への設置・プログラムテスト・全学図書職員への説明，講習等々…多忙を極めた1年余であったが，とにかく予定通り4月1日から主要業務の運用を開始することができたので報告したい。

なお「北海道大学図書館オンラインシステム」については，本館報「楡蔭 No. 66」に目的・各システムの概要・機器の構成等，No. 67に「雑誌情報管理システム」，No. 68に「所在情報管理システム」がそれぞれ紹介されているので，ここでは各システムごとに，4月からの運用の実情と今後の予定，問題点等を中心に述べることにする。

1. 蔵書検索システム

本学図書業務電算化の主目的は，「学術情報センターを中心とする学術情報流通システムの一環としてその責務を果たすとともに，同センターの豊富な書誌データベースを最大限に活用して全学総合目録データベースを作成し，利用者がオンラインで多面的に検索できるシステムを作成する」ことであった。この「オンラインリアルタイムで文献検索ができる」という精神は，各システムを通し一貫して構築したつもりである。

学術情報センターを通しての全国ネットワークへの参加は，本年2月に同センターとの接続に成功し，センターの所蔵する豊富な書誌データを利用できるようになった。

蔵書検索システムについては，4月1日から学内各端末から使用が可能となっているが，システムが完成したばかりなので入力されているデータは限られている。現在検索できるのは，

(1) 雑誌については，「学術雑誌総合目録」に収蔵されている学内の和洋雑誌約2万点の所蔵状況を知ることができる。これまで目録に未収録の約1万点についても順次入力する予定なので，来年の今頃は学内に所蔵している雑誌はすべて検索できる見込みである。また，この館報が読まれる頃には，各部局で受入れされる雑誌の新着況状も検索できる予定であるし，本・分館で所蔵する製本雑誌の内約8万冊のデータも入力されたので，雑誌に関しては所蔵状況，新着状況，製本状況と三様の検索ができ，利用者にとっては格段に便利となろう。

(2) 図書資料については，本・分館，理学部が4月から入力を開始し，5月末現在数部局を除いてデータの入力が始まっているので，新着受入図書のデータは今後順調に入力されると思われる。現在は1日100件程度のデータが入力されているが，雑誌に比し入力データが少ないので，利用者の方に満足していただくにはもう少し時間がかかろう。これは，本学の蔵書240万冊（製本された雑誌も含む）の遡及入力とも関連し，今後の大きな問題として残されている。しかし，データ入力が軌道にのれば，全学の図書目録を見に本館まで来る必要がなく，また，部局で受入れてからカード配列されるまで平均1年を要していたタイムラグにも泣かされることなく，全学の最新の情報を自分の部局の端末から検索可能となる。

これらの資料は，和・洋・図書・雑誌の別を意識することなく，書(誌)名，著者名，書(誌)名の中の重要語，あるいは分類記号などから検索することができる。

このシステムの実用化に併せて，図書館委員会で「北海道大学書誌・所在情報取扱いに関する申合せ」(本誌16頁の電算化ニュース参照) が了承され，今後の目録はオンライン検索に

よることとなった。

2. 図書情報管理システム

(1) 目録管理： 今までは,受入された図書資料は各部局ごとに判断して目録を作成してきたため，同一図書でも部局によりデータの取り方が異なるケースも多かった。しかし，これからは受入資料の全てが「1書1誌データ」の原則の下に，学術情報センターの全国的基準に従って入力される。このため，学内入力基準の統一，目録作成担当者への教育と基準の徹底が必要であり，システムとしては完成しているが学内でのデータ入力は前述のとおり段階的に進んでいるのが実情である。また，学術情報センターとの接続は，データの送・受信の面でのシステムのレベルアップを進めている段階なので，全国ネットワークへの本格的なデータ入力は本年末ごろからの見込みである。しかしこの間，北大ファイルにはセンターの仕様に基づいてデータ入力はされているので，少しずつではあるが確実にデータは蓄積されている。また，閲覧用図書カードは必要なくなったが，カード形式のプルーフシートが打ち出されるので，それぞれの部局の必要に応じて縮小しカードは作成できる。

(2) 予算管理： 執行済図書費等については学部，学科，講座等別に随時データが提供できる。

3. 雑誌情報管理システム

システムの中でもっともプログラム数が多く業務範囲も広いが，このシステムは一部を除き日常業務関係はほとんど完成している。ただ，他の業務との関係もあって，全学的には4月から購入外国雑誌，6月から購入国内雑誌，8月から寄贈雑誌の受入れ業務の電算処理を予定しているので，部局によって多少の時間のずれはあっても，秋頃からは雑誌に関する業務はほとんど電算化されるものと思われる。

今後は，雑誌の書誌に関する変遷，追加等のデータ処理は本館学術情報掛が一括して取り扱うとともに，1年ごとに最新のデータを磁気テープに落として学術情報センターに送付し，センターのデータを更新する。これにより，今後各部局とも，2～3年ごとにセンターに提出していた所蔵雑誌の調査は不要となる。

4. 所在情報管理システム

資料は，利用者が何時でも必要に応じて利用できるように，常に最新で正確な所在場所の表示が要求される。このため，北大システムでは貸出・返却業務を単なる閲覧業務として考えず，研究室貸出図書の管理も含めて所在情報として把握し，

(1) 書庫や閲覧室に配架されていて，一般利用者に何時でも貸出できる状態

(2) 研究費で購入され，研究教育活動のために当該研究室，教官等に長期貸出されている状態

(3) 教職員や学生等に短期に「一般貸出」されている状態

の3つのケースを想定してシステムの設計を行った。

(1)と(3)については，本・分館の貸出・返却業務は5月から電算化され，開架図書のデータは「簡略書誌ファイル」に入力されているので,従来の3枚綴りの借用書を書く必要は無く，利用者票と図書のナンバーをハンドスキャーナで読みとり処理される。貸出されている図書の照会，予約も同様処理される。しかし，書庫内資料のデータはまだ入力されていないので，当分の間は，書庫内資料の貸出等の手続きは従来どおりとなっている。

本・分館以外，当面は一般貸出業務を電算処理する予定の部局はないが，テンキー（数字のみ）だけでも処理できるので，今後実施しようとする部局図書室もでてくるものと思われる。

いずれにしても，電算化によって全学の資料が共通的な条件で検索され，利用する途が開かれるので「書誌・所在情報取り扱いに関する申合せ」とともに，「北海道大学におけるオンライン貸出に関する申合せ」（本誌17頁の電算化ニュース参照）が図書館委員会で了承された。

研究室貸出図書については，当該研究室または教官等が購入した図書は，教官を責任者として研究室貸出し（1年以内とし，必要に応じ更新）を受けることができる。この場合でも，当然のことながらデータはすべて入力され，部局内での所在場所の変更，管理換えによる他部局への移管等の時は，該当図書の資料番号を入力して新所在コードを指定し，新所在場所への変更を行うとともに，必要なリストを直ちに打ち出し事務的な手続きを行なう。このため，今までは所蔵箇所変更等は関連のカードを全て抜き取り，訂正後またカードボックスに戻していたが，今後は大幅に省力化される。また，OCR ラベルの貼られた図書については，BM（ブックモビール）用携帯ハンドスキャナーで資料番号を読みとり入力データと照合できるので，蔵書点検作業等は迅速化できることになろう。

5. そ の 他

4月から電算化がスタートし，検索，業務処理の面で非常に便利になりつつあるが，これから解決しなければならないことも多い。2, 3あげてみると

(1) 小部局図書室での運用

「図書館システム」の開発が順調に進み，ほとんどの業務が4月から使用可能となった。このため，多人数で分業化されている本・分館，大部局図書室はともあれ，職員が1～2名の小部局ではシステムの操作法習得に追われているといった状態である。

学術情報課としては，全体的な講習等のほかに毎週水曜日にシステム相談日を設定して相談に応じているが，各業務の電算化への切り替えも，各部局の実情を尊重して，切り替え可能となった時点で個別に研修してひとつずつ切り替えていただいている。このため利用者が検索しても，当分の間は部局によってデータ入力の開始時期にバラツキがあるため，部局間のズレが気になると思われるが，各図書室とも努力をされているのでもう少し時間をかしていただきたい。

(2) 全国的情報流通システム（学術情報センター）との接続

全国的なネットワークの一環として参加することが大きな目的であるが，目録管理で述べたように，現在レベルアップの作業中であり，センターへ本格的にデータが入力できるのは本年末ごろである。また，他の接続館からのセンターに対するデータ入力も遅れており，今年度あたりから継続的に入力してくるものと思われる。このため，全国的な情報流通システムが実用化され，利用者が活用できるまでにはもう少し時間がかかろう。

(3) 現在所蔵している蔵書の遡及入力

これから受入れる資料のデータ（製本雑誌を含め年間約8万冊）はすべて入力され，端末からオンライン検索で最新のデータを検索することができるが，全学で過去に受け入れた約240万冊の蔵書の検索は当面カード目録に頼らざるを得ない。今後オンライン検索が軌道にのると，当然この240万冊の蔵書の遡及入力が全学的にも各部局内でも問題になり，今後の重要な検討課題となろう。

この他にも，システム的には配慮したつもりではあるが利用者のプライバシーの保護，資料共通利用のための学内体制の整備等，いろいろな問題が起ることが予想される。これらは，いずれも利用者の協力なしでは解決しないものばかりでもある。どうか長い目でこのオンラインシステムを見守り，ご協力いただきたい。

以上，簡単に4月からの図書業務電算化の現状と問題点を述べたが，稼働してから日も浅く，まだまだ改善の余地があるものと思われる。システムをご利用のうえ，遠慮のないご意見をおきかせいただければ幸いである。 （文責 逵 昭二）

新システムにおける閲覧業務（貸出・返却等）の現況

図書業務電算化も進み，5月1日より附属図書館と教養分館においてオンライン処理による閲覧業務の運用が開始されました。

貸出，返却，貸出図書問い合わせ・予約，督促，統計等閲覧関係諸業務はほとんど電算化されましたが，とりわけ主要業務である一般貸出・返却処理については以前の手作業に比べ著しく省力化されています。

貸出手続きも，これまでのように図書借用書を書く煩わしさから開放され，現物に図書利用票（学生にあっては学生証）を添えてカウンターへ差し出すだけです。あとは，閲覧担当者がOCRハンドスキャナーで利用者番号と資料番号をなぞるだけで直ちに貸出OKとなり，利用者の負担は著しく軽減されています。しかし注意点もあります。当然のことですが図書利用票を所持していなければこのシステムによる貸出は受けれません。また，貸出期限切れ図書がある場合には，当該図書が返却されるまで新たな貸出は禁止されるので，期限，冊数には充分留意し，利用票は常に携行してください。

開架図書については機械貸出のための事前作業は終了しているので問題はありませんが，書庫内資料はOCRラベル貼付などこれからの作業となっているため，今暫くは旧貸出方法も併用せざるをえません。まだ不充分な面もあるかと思いますが，すこしづつ利用者にとって便利になると思います。

（閲 覧 課）

◆ 会　議

第125回 図書館委員会

<と き　昭和61年2月26日(水)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 北海道大学書誌・所在情報取扱規程(案)等について
2. そ の 他

第126回 図書館委員会

<と き　昭和61年3月26日(水)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 北海道大学附属図書館利用規程(案)について
2. 北海道大学書誌・所在情報取扱いに関する申合せ(案)について
3. 北海道大学図書館におけるオンライン貸出に関する申合せ(案)について
4. 昭和62年度概算要求事項について
5. そ の 他

第127回 図書館委員会

<と き　昭和61年5月28日(水)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 学内共同利用逐次刊行物等検討小委員会について
2. 昭和60年度決算について
3. そ の 他

第86回 教養分館委員会

<と き　昭和61年2月20日(木)>
<ところ　教養分館会議室>

議　題

1. 北海道大学附属図書館利用規程(案)について
2. そ の 他

第87回 教養分館委員会

<と き　昭和61年4月25日(金)>
<ところ　教養分館会議室>

議　題

1. 昭和60年度図書購入費決算について
2. 昭和61年度図書予算(案)に ついて
3. 昭和61年度教官指定図書の選定について
4. そ の 他

図書担当掛長会議

<と き　昭和61年2月14日(金)>
<ところ　附属図書館会議室>

議　題

1. 北海道大学書誌・所在情報取扱規程(案)等について
2. そ の 他

図書担当掛長会議

＜とき　昭和61年3月17日(月)＞
＜ところ　附属図書館会議室＞

議　題

1. オンラインによる相互貸借の窓口について
2. テキストメールによる学内文献複写依頼システムの開発について
3. その他

図書担当掛長会議

＜とき　昭和61年4月18日(金)＞
＜ところ　附属図書館会議室＞

報告事項その他

図書担当掛長会議

＜とき　昭和61年5月30日(金)＞
＜ところ　附属図書館会議室＞

議　題

1. 会計検査について
2. その他

北海道地区国立大学図書館協議会

＜とき　昭和61年4月22日(火)＞
＜ところ　室蘭工業大学＞

議　題

1. 北海道地区における学術情報システム関連の研修計画について
2. 第33回国立大学図書館協議会総会関係について
3. 次期当番館について
4. その他

北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議

＜とき　昭和61年4月22日(火)＞
＜ところ　室蘭工業大学＞

議　題

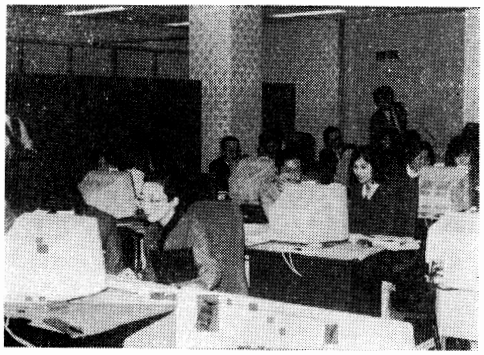
1. 北海道地区における学術情報システム関連の研修計画について
2. その他

◆ 研　修

昭和60年度　北海道大学図書目録担当職員講習会

標記講習会は，昭和61年2月25日から27日までの3日間にわたって，本学附属図書館を会場に行われた。

この講習会は，本学の図書目録担当職員に対して，東京大学文献情報センター（昭和61年4月5日から「学術情報センター」となる。）の目録所在情報サービスの利用に際し，これを円滑に行うために必要な基本的知識の修得と北海道大学図書館オンラインシステムに関する使用法等に習熟させることを目的に実施されたものである。



なお，今回は，第1回目で受講者は，20名が参加して行われ修了者全員に修了証書が授与された。

プログラムは，次のとおりである。

（プ ロ グ ラ ム）

	時　間	講　義　内　容	講　師
第1日	9:30～12:00 (休憩 10:50～11:00)	1. 文献情報センター・システムについて 2. システムの基本的な考え方 3. 目録情報と目録データ・ベース 4. 参照ファイルと NC ファイル 5. データ・ベース操作の基本的考え方	東京大学文献情報センター 職　員
	13:00～16:30 (休憩 14:45～15:00)	1. 端末の扱い方 2. 接続と LOG ON 3. 文字の扱いと表記法 4. 検索の技法 5. 実習	〃
第2日	9:30～12:00 (休憩 10:50～11:00)	1. 図書と雑誌 2. 和と洋 3. 図書書誌ファイル	〃
	13:00～16:30 (休憩 14:45～15:00)	1. リンクの付けかた，修正の仕方 2. 著者名典拠ファイルの中身 3. 統一書名典拠 4. 書誌構造 5. 図書所蔵入力	〃
第3日	9:30～12:00 (休憩 10:50～11:00)	1. 実　習	〃
	13:00～16:30 (休憩 14:45～15:00)	1. 実　習 2. まとめ	〃

◆ 電算化ニュース

図書業務電算化に伴う全学的申合せを図書館委員会で了承

4月1日からの図書業務電算化にあたり，全学的な統一基準で対応するため，3月26日の第126回図書館委員会で次の2つの申合せが了承された。

北海道大学書誌・所在情報取扱いに関する申合せ

昭和61年3月26日
第126回図書館委員会申合せ

（趣　旨）

1　北海道大学（医療技術短期大学部を含む。以下「本学」という。）の附属図書館およびその他の部局等図書室（以下「図書館等」という。）における図書館資料（以下「資料」という。）の書誌・所在情報の取扱いは，この申合せによるものとする。

（定　義）

2　この申合せにおいて資料とは，本学に所蔵する次の各号に掲げるものをいう。

(1) 図　書　　(3) 視聴覚資料
(2) 逐次刊行物（雑誌・紀要等）　(4) その他の資料

（システム）

3　図書館等は，それぞれ受け入れた資料について，書誌・所在情報を「北海道大学図書館オンラインシステム」（以下「システム」という。）により作成するものとする。

（書誌情報）

4　書誌情報の作成にあたっては，次の各号に掲げるところによるものとする。

(1) 一資料に対し一書誌情報とし，重複して書誌情報の作成は行わない。なお，資料個別化記号に十桁の数字コードを与える。
(2) 目録の記入については，和書は日本目録規則，洋書は英米目録規則に準拠し，東京大学文献情報センターの「目録情報の基準」を用いる。
(3) 分類については，デューイ十進分類法（水産学部は日本十進分類法）を用いる。ただし，逐次刊行物については，分類を行わない。

（所在情報）

5　資料の所在情報については，図書館に配架するものは配架室等の名称を，研究室等に配架するものは，研究室等の名称をそれぞれ入力するものとする。

（検 索 語）

6　書誌・所在情報を検索する索引として，次の各号に掲げるものを検索語とする。

(1) 書　名　　(4) 書名中の重要語
(2) 著　者　　(5) 各種図書コード
(3) 分類記号

（情報の提供）

7　この申合せにより作成した書誌・所在情報の利用者への提供は，オンライン端末を使用したシステムによるものとする。

（雑　則）

8　この申合せによるもののほか，書誌・所在情報の取扱いに必要な事項は，附属図書館長が

別に定める。

北海道大学図書館におけるオンライン貸出に関する申合せ

昭和61年3月26日
第126回図書館委員会申合せ

（趣　旨）

1　北海道大学（医療技術短期大学部を含む，以下「本学」という。）の附属図書館およびその他の部局等図書室（以下「図書館等」という。）の貸出サービスを，「北海道大学図書館オンラインシステム」（以下「システム」という。）によって実施する場合は，この申合せによるものとする。

（定　義）

2　この申合せにおいて，貸出とは次の各号に掲げるものをいう。

(1)　一般貸出　　(2)　研究室貸出

（一般貸出）

3　一般貸出の対象とする資料は，図書館等内に配架されている資料で，それぞれの図書館等が定める貸出禁止資料を除くものとする。

4　一般貸出を受けることができる者は，次の各号に掲げるものとする。

(1)　本学の職員
(2)　本学の学生（研究生，聴講生等を含む。）
(3)　本学の名誉教授
(4)　附属図書館長（以下「館長」という。）が許可した者
(5)　貸出証はシステム共通の電算機可読コードを記載したものとし，貸出・返却にあたっては必ず図書館等の窓口に提示するものとする。

6　このシステムによって，一利用者が全学の図書館等で一般貸出を受けることができる総冊数および期間は，次の各号に掲げる範囲内とする。

(1)　教官・名誉教授	100冊	90日以内
(2)　大学院学生（研究生）	50冊	60日以内
(3)　本学の学生	10冊	15日以内
(4)　教官を除く職員	10冊	30日以内
(5)　館長が許可した者	10冊	30日以内

（研究室貸出）

7　研究室貸出の対象とすることができる資料は，次の各号により図書館等が受け入れたものとする。

(1)　部局等の研究室および資料室（以下「研究室等」という。）又は教官の予算で購入した資料
(2)　研究室等又は教官を通して寄付された資料

8　研究室貸出を受けることができる者は，次の各号に掲げるものとする。

(1)　当該研究室等　　(2)　当該教官

9　このシステムによる研究室貸出の期間は1年以内とする。ただし，必要に応じ更新することができるものとする。

10　研究室貸出証は，教官個人については第5項に規定する一般貸出証を流用し，研究室等に

ついては，教官を使用責任者として研究室貸出証の交付を受けるものとする。

（雑　則）

11　この申合せによるもののほかオンライン貸出に必要な事項は，館長が別に定める。

運 用 部 会 報 告

図書情報システム運用部会

第2回　昭和61年2月12日（水）

報告事項

1　目録テスト班の進行状況について

2　目録テスト班収集のテストデータの取扱いとテスト内容について

①　応答速度　②　文情センターマニュアルの整合性　③　文字化け等

議　題

1　文情センターシステム講習会の開催について

2　運用部会における班の構成と各班の役割分担について

第3回　昭和61年3月18日（火）

報告事項

1　文献情報センターとのUIP接続テスト結果について

2　図書分類表等に関する問題について

3　特殊言語の取扱い，特に「拡張文字の単語登録」について

4　検索語の付与基準について

5　端末機器の使用について

6　そ　の　他

議　題

1　北大目録システムテストのための図書データ作成について

2　目録関係「運用の手引き」作成について

第4回　昭61和年4月9日（水）

4月1日より北大目録システムが稼動可能となったので，目録担当者16名を対象に説明会と実務テストを行った。まず北大システムの運用について山田学術情報課長よりOHPを使用して説明があり，宇野情報処理掛長の補足説明の後，杉田事務官の指導により実際に端末10台を使用しての入力実習を行った。

報告事項

1　人事異動に伴う新委員の任命について

2　テスト用図書データ2,000～3,000件の入力について

3　そ　の　他

議　題

1　北大目録システムの運用について

2　そ　の　他

第5回　昭和61年4月23日（水）

北大図書目録データ作成に係る重要課題と，今迄検討されてきた問題と今後の方向について山田学術情報課長から説明があった後，討議が行なわれた。

1　北大システムにおける「ケース2」について
2　北大システムにおける書誌階層構造の処理について
3　検索語付与基準（案）について
4　分類表および著者記号の統一について

第6回　昭和61年5月27日（火）

これまで，各班にわかれて検討された内容について代表者より説明と報告があった。山田学術情報課長より，これらの問題に関しての今後の運用の仕方と方針等について詳細な説明があり，検討の結果一括して了承されたので，全学図書掛長会議に提出し諮ることになった。なお，部会内の各班はこれをもって解散することにした。

議　題

1　分類表と著者記号
2　検索語の形式と選択
3　配列順序について
4　特殊言語について
5　書誌データに関する階層構造
6　UIP ケース2の設計方針
7　年鑑，年報，白書類の扱い
8　図書情報管理システムの修正および改良
9　受入資料および分類別統計表について

雑誌情報システム運用部会

第2回　昭和61年2月20日（木）

雑誌システム構築のスケジュール，運用開始の手順等の説明があった後，前回に引続き，グループに分かれ討議した。1. 外字の扱いは，図書情報システム運用部会でも検討されているため，当部会としてはこの結論に準拠することとした。2. 検索語については，設計過程での資料をもとに選定の基本的考え方を検討した。3. マニュアルの作成について，具体的な作業手順を決めた。

第3回　昭和61年3月19日（水）

受入作業の前準備として，オンラインによる「受入雑誌ファイル作成」が各部局で開始されたため，これに伴う問題点の説明，討議が行われた。その他，雑誌所蔵データベースの充実，製本データ遡及入力，雑誌書誌の新規作成，寄贈雑誌の重複調整，検索語の入力等について問題点を洗い出した。

第4回　昭和61年4月16日（水）

雑誌システムの全体像の説明があった後，オンラインによる受入作業の現況について各部局から報告があった。また，前回まで検討された検索語の入力を中心とする雑誌書誌の整備について，整備案が図られ了承された。

第5回　昭和61年5月21日（水）

「検索語の形式と選択」について説明があり，了承された。次に，製本単位の所在情報の表示方法が変更になった事に伴なう，運用上の注意点が説明された。その後，督促リストなどの諸リストの出力方法が説明され，全員で実習を行なった。

所在情報システム運用部会

第2回 昭和61年2月5日（水）

議 題

1 所在情報システムの各電算処理業務について
2 所在・予算コードの入力と表示形について
3 オンライン貸出申し合わせについて
4 利用者登録担当区分について
5 図書利用票について
6 利用者コード登録手順について

第3回 昭和61年3月24日

議 題

1 所在情報について
2 個人情報とプライバシーについて
3 研究室貸出運用例（案）について
4 MB端末機の使用方法について

実 習

1 蔵書検索
2 PWSSリスト出力
3 テキストメール

第4回 昭和61年4月25日（金）

議 題

1 図書利用票の取扱いについて
2 学外一般利用希望者への対応について
3 所在情報提供のレベルと表示形について

実 習

1 所在情報システムの各処理業務
2 VD出力

電算化準備記録 (7)

昭和61年2月～3月

年月日	事項
61. 2. 3	第4回端末基本操作並びにカナタイプ講習会 (3日間)
61. 2. 4	文献情報センターとの閉域接続テスト終了
61. 2. 5	第1回所在情報システム運用部会
61. 2. 5~6	PWSS 使用講習会
61. 2. 5~7	文献情報センターとの接続テスト，接続完了
61. 2. 6	第5回端末基本操作並びにカナタイプ講習会 (3日間)
	第31回システム設計実施部会
61. 2. 7	所在情報部会により利用者コード入力説明会
61. 2.10	文献情報センターより「端末使用番号通知」文書着
61. 2.12	第6回端末基本操作並びにカナタイプ講習会 (3日間)
	第2回図書情報システム運用部会
61. 2.13	第32回システム設計実施部会
61. 2.17	第7回端末基本操作並びにカナタイプ講習会 (3日間)
61. 2.18	日本電気との定例打合せ会議 (第12回)
61. 2.20	第8回端末基本操作並びにカナタイプ講習会 (3日間)
	第2回雑誌情報システム運用部会
61. 2.25~27	昭和60年度北海道大学図書目録担当職員講習会
61. 2.28	日本電気との定例打合せ会議 (第13回)
61. 3. 1	電算機レンタルについて日本電気と正式契約
61. 3. 5	第1回雑誌データ入力説明会 水産学部と本館間接続
61. 3. 6	第33回システム設計実施部会
61. 3. 7	全端末 (100台) と全プリンターの接続・作動テスト，全台正常接続・作動確認
61. 3.11~13	(会計検査院) 情報処理関係会計実地検査，図書館には13日に来館し検査
61. 3.14	日本電気との定例打合せ会議 (第14回)
61. 3.17	全学図書(担当)掛長会議，4月1日からの運用開始にあたっての基本的な注意，留意事項等を説明
61. 3.18	第3回図書情報システム運用部会
61. 3.19	第3回雑誌情報システム運用部会
61. 3.20	第34回システム設計実施部会
61. 3.24	第2回所在情報システム運用部会
61. 3.26	第126回図書館委員会。「北海道大学附属図書館利用規程 (案)」とともに，「北海道大学書誌・所在情報取扱いに関する申合せ」と「北海道大学図書館におけるオンライン貸出しに関する申合せ」の2案了承さる。
61. 3.27	端末負荷 (50台一斉稼働) テスト
61. 3.28	日本電気との定例打合せ会議 (第15回)
61. 3.31	「北海道大学図書館オンラインシステム」運用法説明会

4月1日以後「北海道大学図書館オンラインシステム」の運用が実用化されたので，4月以降は「電算化記録」として2期計画が終了するまで掲載する予定。

電算化記録 (1)

昭和61年4月～5月

年月日	事項
61. 4. 1	「雑誌受入れ」，「蔵書検索」を中心にシステムの運用開始
61. 4. 9	第4回図書情報システム運用部会
61. 4.10	第35回システム設計実施部会
61. 4.11	日本電気との定例打合せ会議 (第16回)
61. 4.16	第4回雑誌情報システム運用部会
61. 4.23	第5回図書情報システム運用部会
61. 4.24	第36回システム設計実施部会
61. 4.25	日本電気との定例打合せ会議 (第17回)
	第3回所在情報システム運用部会
61. 5. 1	本・分館の閲覧関係業務の電算化開始
61. 5. 1	第37回システム設計実施部会
61. 5. 8	第38回システム設計実施部会
61. 5.12~14	第9回 (午前) 端末基本操作並びにカナタイプ講習会
61. 5.15	第39回システム設計実施部会
61. 5.20	日本電気との定例打ち合せ会議 (第18回)
61. 5.21	第5回雑誌情報システム運用部会
61. 5.22	第40回システム設計実施部会
61. 5.27	第6回図書情報システム運用部会
61. 5.29	第41回システム設計実施部会

◆ 受贈図書

本学教官著作物

〔本 館〕

○理 学 部

大 野 公 男　分子の電子状態 (分子科学講座5) 共立出版 1985

○歯 学 部

山 崎 岐 男　レントゲンの生涯～X 線発見の栄光と影～ 富士書院 1986

○言語文化部

中 村 健 之 介　ドストエフスキー 写真と記録 論創社 1986

○応用電気研究所

朝 倉 利 光 他　Proceedings to the International Symposium on B. Pilsudski's Phonographic Records and the Ainu Culture, Sept. 16-20, 1985. Executive Committee of the International Symposium Hokkaido University, 1985.

〔教 養 分 館〕

○文 学 部

河 内 祥 輔　古代政治史における天皇制の論理 吉川弘文館 1986

菊地英夫・高畠 稔・中井英基 他　変革期アジアの法と経済 1986

◇ 人 事 往 来 ◇

退 職

砂 田 和 子	整理課目録掛	61.2.15
浦 田 雅 子	〃 庶務掛	61.3.31
景 山 美智子	〃 受入掛	〃
秋 葉 純 江	〃 目録掛	〃
松 見 浄 子	閲覧課閲覧掛	〃
大 道 環	〃 〃	〃
坂 井 香 子	〃 参考調査掛	〃
鈴 木 美樹子	〃 教養分館閲覧掛	〃
嵐 弘 美	〃 〃	〃

採 用

中 條 将 喜	文学部図書掛	61.4. 1
高 木 靖 子	整理課庶務掛	〃
黒 沢 美 香	〃 受入掛	〃
笹 波 さゆり	〃 〃	〃
近 藤 純 子	〃 目録掛	〃
佐々木 由 佳	閲覧課閲覧掛	〃
小野寺 理 佳	〃 参考調査掛	〃
志 釜 由美子	〃 教養分館閲覧掛	〃
斎 藤 智 子	〃 〃	〃
吉 留 千 恵	言語文化部図書資料室	〃

配置換・転任等

酒 井 豊	事務部長 (静岡大学附属図書館事務部長)	61.4. 1
坪 田 充 弘	整理課受入掛長 (医学部図書整理掛長)	〃
清 水 明	〃 教養分館整理掛長 (教育学部図書掛長)	〃

荒木　修	閲覧課閲覧掛長（学術情報課情報処理掛長）	〃
宇野弘純	学術情報課情報処理掛長（閲覧課閲覧掛長）	〃
藤田君男	整理課庶務掛主任（免疫科学研究所庶務掛主任）	〃
入沢秀次	〃　会計掛（医学部附属病院医事課患者第二掛）	〃
畠山輝敏	〃　目録掛（文学部図書掛）	〃
松川　衛	東北大学附属図書館事務部長（事務部長）	〃
佐藤　透	歯学部総務課図書掛長（整理課受入掛長）	〃
庄司重陽	医学部図書整理掛長（整理課教養分館整理掛長）	〃
荒川嗣雄	歯学部総務課庶務掛主任（整理課庶務掛主任）	〃
田村和洋	法学部会計掛（整理課会計掛）	〃
堅田政孝	教育学部図書掛長（歯学部総務課図書掛長）	〃
糸畑　弘	農学部図書掛（応用電気研究所会計掛）	〃
長野美年子	教養部庶務掛（言語文化部図書資料室）	〃
似鳥正吾	整理課長（富山医科薬科大学教務部図書課長）	61. 5. 1
清水　弘	整理課受入掛（閲覧課閲覧掛）	〃
桑野勇次	閲覧課閲覧掛（整理課受入掛）	〃
佐藤繁好	室蘭工業大学附属図書館事務長（整理課長）	〃

お知らせ

ファックスの設置について

この度，附属図書館ならびに工学部図書室に，ファックスを設置しましたのでお知らせします。番号は，次のとおりです。

附属図書館　(011) 747—2855
工学部図書室　(011) 717—4745

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」　(通巻69号)
1986年6月30日 発行　発行人　酒井　豊
編集委員　逵　昭二(長)・久原秀志(図)・山口國雄(図)・高砂　慶(図)・藤島　隆(医)・岡田　潔(経)
宇野洋子(理)
発行所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 716-2111 (2967)
印刷所　文栄堂印刷所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560・5561